

ツメ2箇所およびガイド3箇所をかん合させ、カウルトップベンチレーターカバーCTRを取り付ける。

- ii. フードトウカウルトップシールずらし、ツメをかん合させる。

■ 3.ブレーキフルード取替 (SST不使用時)

注意：

- ・ 下記手順を行うことで、SST(TaSCAN)を使用せずにブレーキ制御禁止モードへ移行することができる。
- ・ ブレーキ制御禁止モードにより、SST(TaSCAN)を使用せずにブレーキフルード取替が可能である。
- ・ ブレーキ制御禁止モードでのフレキシブルホース交換時やキャリパー交換時のエア抜き作業は行わない。
- ・ ブレーキ制御禁止モードへ移行すると、電子制御ブレーキウォーニングランプが点滅する。
- ・ ブレーキフルード取替作業は、電子制御ブレーキウォーニングランプの点滅を確認しながら行うこと。
- ・ 以下のいずれかの条件を満たすと、ブレーキ制御禁止モードが解除され、電子制御ブレーキウォーニングランプが消灯する。これにより、ダイアグノーシスコードが記憶されることがあるので、フルード交換が終了するまでブレーキ制御禁止モードを解除しない。

シフトポジションP以外
READY ON
パーキングブレーキ解除
IG OFF
車速0km/h以外

- ・ ブレーキ制御禁止モード移行中にブレーキディスクロータを回転させない。
- ・ ブレーキフルード取替の際、ポンプモータ駆動を連続100秒以上行くとダイアグノーシスコードが記憶されることがあるので、100秒以内にペダルを離してポンプモータ駆動を一旦停止させる。
- ・ フルード取替作業中、電子制御ブレーキウォーニングランプ点滅およびブザーが吹鳴するが異常ではない。
- ・ SST(TaSCAN)を使用せずにブレーキフルード取替作業を行う場合は、リザーバ注入口にフルード缶を立てても良い。*

参考：

- * ブリーダプラグを開けたまま複数回ブレーキペダルを踏むと、ブレーキフルードがリザーバから溢れる可能性がある。

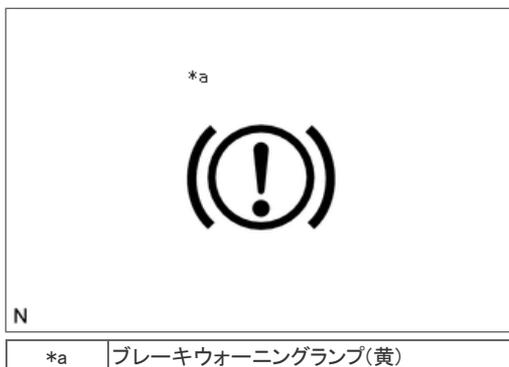
- a. タイヤ取りはずし

- b. ブレーキ制御禁止モード移行

- i. 以下の手順を、1分以内に行う。

1. パーキングブレーキが作用していることを確認し、シフトポジションPでIG ONする。
2. シフトポジションNで、ブレーキペダルの踏み込み・開放を5秒以内に8回以上行う。
3. シフトポジションPで、ブレーキペダルの踏み込み・開放を5秒以内に8回以上行う。
4. シフトポジションNで、ブレーキペダルの踏み込み・開放を5秒以内に8回以上行う。
5. シフトポジションPにする。

- ii.



電子制御ブレーキウォーニングランプが点滅することを確認する。

- c. カウルトップベンチレーターカバーCTR取りはずし